

# タングステン粒子を用いた放射線遮蔽シート素材の評価

## Evaluation of radiation shielding sheet material using tungsten particles

\*井野博貴<sup>1</sup>, 佐倉俊治<sup>2</sup>, 田口光正<sup>3</sup>, 蛭名武雄<sup>4</sup>, 川合将義<sup>5</sup>, 岩宮陽子<sup>6</sup>, 砂川武義<sup>1</sup>

<sup>1</sup>福井工業大学, <sup>2</sup>(株)ニュークリアテクノロジー, <sup>3</sup>量子科学技術研究開発機構,

<sup>4</sup>産業技術総合研究所, <sup>5</sup>高エネルギー加速器研究機構, <sup>6</sup>超越化研

本研究は原子力発電プラントの廃炉における被ばく線量の低減を目的に開発された、ポリエステル基布にタングステンの粉末を塗布した構造を持つ放射線遮蔽シートの遮蔽効果評価を行った。

キーワード：放射線遮蔽, 散乱線, 放射線計測

### 1. 緒言

本研究は原子力発電プラントの廃炉に携わる作業員の被ばく線量低減技術開発のため、ポリエステル基布にタングステンの粉末を塗布した構造の遮蔽シートが開発された<sup>[1][2]</sup>。本研究は、量子科学技術研究開発機構(QST)高崎量子応用研究所<sup>60</sup>Co 照射施設内の散乱線場で遮蔽効果測定を行い、遮蔽シート及び鉛板の遮蔽率を求め、これらのデータの比較から本遮蔽シートの遮蔽効果を評価した。

### 2. 実験

Fig.1 に 2 種類の遮蔽シートの写真を示す。ここで、スモックシートとはポリエステル基布にタングステンの粉末を塗布したフラットシートに収縮加工を施したもので、50%の収縮率であり、単位面積当たりの質量はフラットシートの約 2 倍である。測定に使用した線源は<sup>60</sup>Co 約 26TBq (2016 年 12 月現在)γ 線源である。測定試料は<sup>60</sup>Co から



Fig.1 遮蔽シートの写真  
(左)フラットシート(右)スモックシート

Table.1 遮蔽効果の測定結果

測定試料	枚数or厚み	10cm×10cm 板の質量(g)	実効線量(mSv)		透過率 $I/I_0$	遮蔽率 $1-I/I_0$
			$I$	$I_0$		
遮蔽シート (フラット)	1枚	9.3	0.30	0.31	0.97	0.03
	2枚	18.6	0.28	0.31	0.90	0.10
	4枚	37.2	0.26	0.31	0.84	0.16
遮蔽シート (スモック)	1枚	20.24	0.28	0.31	0.90	0.10
	2枚	40.48	0.26	0.31	0.84	0.16
	4枚	80.96	0.22	0.31	0.71	0.29
鉛板	0.63mm	70.9	0.24	0.37	0.65	0.35
	0.96mm	109.3	0.20	0.37	0.54	0.46

の直接線が入り込まない散乱線場に設置した。散乱線のエネルギーは、Kromek 社製 GR-1 CZT 半導体スペクトロメータを用いて測定を行い、散乱線のエネルギーが 500keV 以下であることを確認した。遮蔽効果の測定は、富士電機製 NRY-6 個人線量計を使用した。

### 3. 結果と考察

Table.1 に遮蔽効果の測定結果を示す。Table.1 の各測定試料の遮蔽率の比較から、スモックシート 1 枚は、フラットシート 2 枚分の遮蔽効果を持つことがわかった。これは遮蔽シートの遮蔽効果が、単位面積当たりの質量に依存することを示唆している。なお、散乱線場での放射線のエネルギー分布がブロードであるため、各測定試料の質量減弱係数を一定であると仮定することは困難である。そこで組成の異なる試料に対する遮蔽効果の評価は、遮蔽率等の測定値を用いて行った。本研究で行った 500keV 以下の散乱線場におけるスモックシート 4 枚の遮蔽率は、0.5mm の鉛板に近い遮蔽効果を示すことがわかった。

謝辞 本研究は関西電力(株)の廃止措置工事に係る地元企業等との共同研究の一環として実施されたものである。ここに記して感謝する。

### 参考文献

[1]岩宮、原田、川合 日本原子力学会 2017 年春の大会 講演番号 3D12

[2]川合、岩宮、原田 日本原子力学会 2017 年春の大会 講演番号 3D13

\*Hiroataka Ino<sup>1</sup>, Toshiharu Sakura<sup>2</sup>, Mitsumasa Taguchi<sup>3</sup>, Takeo Ebina<sup>4</sup>, Masayoshi Kawai<sup>5</sup>, Yoko Iwamiya<sup>6</sup>, Takeyoshi Sunagawa<sup>1</sup>

<sup>1</sup> Fukui Univ. of Tech., <sup>2</sup> Nuclear Technology Inc., <sup>3</sup> QST, <sup>4</sup> AIST, <sup>5</sup> KEK, <sup>6</sup> CHOETSU KAKEN